

地域と連携した生徒の資質・能力の育成を目指す取組

北海道根室高等学校 学級数 15 (校長 松田 素寛)

□ 実践の概要

本校は、根室市内の唯一の高校であり、進路多様校である。明朗快活な生徒と若い教職員集団による活気ある教育活動が日々展開されている。地域と連携・協働した教科等横断的な探究活動、異校種間の交流、教科指導力の向上を図りながら、生徒に身に付けさせたい資質・能力の育成を目指した教育活動を行っている。

1 実践の目的

本校では、教務部の学習指導グループが主体となり、授業研究、小中学校との交流授業、地域連携を行っている。授業研究では、初任段階教員や各教科の授業公開が計画されている。この授業研究を通して、各教員が授業における課題をもとに主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を図ったり、他教科との実践交流を通して教科指導力の向上を図ったりしている。

2 実践内容

(1) 実施計画

① 授業研究

教務部の授業改善事業「じゅぎょチェン」、「ミニチェン」、教科指導力向上のための個人や各教科の公開授業、授業でのICT活用に係る交流など実践的な研修を定期的に行っている。

② 小・中学校との交流事業

義務教育段階での生徒の学びの履歴を捉えるため、根室市教育委員会や小中校長会などと連携した教員研修や授業交流を行っている。

③ 地域との連携事業

社会に開かれた教育課程として、地域人材を活用した教育活動を展開している。総合的な探究の時間では、地域巡検を行い、地域課題を考えさせるなど教科等横断的な視点も授業で取り入れるようにしている。

(2) 取組の具体

根室市には多くの義務教育諸学校があり、インクルーシブ教育などの充実した特色ある教育活動がなされていることから、高校での学習指導や生徒指導にも役立てるため、小・中学校の授業見学や意見交流を行っている。また、高校の授業見学を小・中学校へ案内し、高校の学習活動への理解も深めてもらっている。その他、教科等横断的な学びや地域人材を活用した地域と連携した探究活動を実施している。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

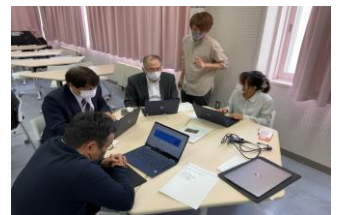
各研修後、振り返りシートの作成、学習指導グループ校内通信「薫風」の発行を通して、活動の成果を全教員へ情報発信しながら、指導方法の工夫・改善が図れるよう継続して取り組んでいる。

(4) 改善後の取組

実施計画①～③を有機的に結びつけ、生徒に係る情報共有や研修、地域人材の活用など計画の固定化やマンネリ化がないよう工夫・改善を図っている。

3 実践のポイント

- 個々の教員や学校の強み・弱みを理解し、小・中学校や地域なども含めた他者との関わりなど、連携・協働を通じて学校や地域の課題を解決していくことが必要である。
- 自己研鑽や校内研修という学校だけの枠にとらわれずに異校種連携、地域連携などを通じ、生徒の多様な学習ニーズへの対応や特色ある教育課程を展開するなど、生徒の学びを充実させる具体的な教育活動を展開している。
- 今後、不登校経験を有する生徒や特別な支援を必要とする生徒など、多様な背景を有する生徒などが学びを継続できるような連携も必要である。



【ICT活用の研修】



【課題研究の地域人材】



【インクルーシブ教育の講義】